

JOMF 派遣医師便り (2017. 12)

◆シンガポール◆

デングワクチンについて

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

11月29日、デングワクチンの製造元の Sanofi 社が、デング熱にかかったことのない人には、このワクチンを勧めないという発表を行った。6年にわたる解析結果から、デング熱にかかったことのない人に打つと入院や重症化の比率が高まることが確認されたからであるとのことであった。

Sanofi 社 という巨大製薬会社が Dengvaxia という世界初となるデング熱予防のためのワクチンを開発し、シンガポールで使用が承認されたのは2016年秋のことであった。デング熱は高熱を発生し、倦怠感、消化器症状が強く、当地では年に1万人以上の患者が出ることもしばしばで、毎年死者も数名出ていることから、デングワクチンは待ち望まれたワクチンであった。

一方、以前から、デングウイルスの2回目の感染は重症化の可能性が高まることが指摘されていたが、このワクチンによる抗体の獲得率は1型に対しては60.4%、2型には53.2%、3型には76.2%、4型には88.0%と発表された。一定の効果は認められるものの、抗体が陽転化しない確率も無視できない高さであることから、デングウイルス未感染者にこのワクチンを打つと、1度だけデング熱にかかったと同じ状態を作ってしまう可能性があり、実際に2度目の感染があったとき、重症化の確率を高めてしまうのではないかという懸念があった。

このことに関して、製造元の Sanofi 社の関係者や、デングワクチンセミナーの講師に複数回、複数の医師らが質問したが、答えは「一回目でも重症化することがある」というものであり、質問者の懸念に関して直接的な答えは得られなかった。

シンガポール保健省もそうした懸念があったためか、待ち望まれたはずのワクチンであったにも関わらず、今に至るまで、喧伝することはなかった。また、同省のホームページでも長らく、デングワクチンは存在しないという記事がアップデートされないままであった。そして、以前にもお伝えしたが、各医師には、その懸念がメールと郵便にて伝えられ^{註1}、このワクチンは既感染者には勧めるが、感染があったかどうかわからない人は、接種前に既感染であるかどうか、検査を受けることを勧めると述べられていた。

12月4日、Sanofi 社の発表を受けてかどうかはわからないが、シンガポール保健省のホームページのデング熱の情報がアップデートされた。そこには、「現在、デング熱を予防するワクチンはない」と明記されていた。

2016 年秋からデングワクチンの宣伝はシンガポール国内で大々的に行われた。医師向けのセミナーも繰り返し開かれ、当院にも複数回、関係者がやってきて、積極的に接種することを勧めていた。しかしながら、上記の懸念が消せないことから、当院医師を含め、多くの医師は接種に積極的にならずにいた。そして今回の発表である。実際に患者さんに勧めていたら、対応には大変苦慮したにちがいない。

世界的に名の通った製薬会社の宣伝でも、情報は鵜呑みにせず、時間をかけて吟味し、論理的にきちんと自分自身で考えることが大切であると改めて思った次第である。

註1 シンガポール保健省は、シンガポールに医師登録した医師一人ひとりに対し、重要、緊急性があると判断した情報を、電子メール、郵便両方の方法で送っている。ちなみに今年はこの情報が年初から 13 件あった。